

...ボランティアがつくるニュースレター...

発行…トラスト通信ボランティア
問合せ…(一財)世田谷トラストまちづくり

〒155-0031
世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール
Tel・03(6407)3311 Fax・03(6407)3319
<http://www.setagaytm.or.jp/>

トラストネットワーク



No. 78 2017年12月

フラワーランド園芸講習会 ～親子でつくるクリスマスリース～

12月3日(日)、表題の講習会が開催されました。最初に世田谷トラストまちづくりの担当者からの挨拶に続き、当日の講師からクリスマスリースとは何かの説明があり、配布された材料の数量の確認をして作業に入りました。



机の上にはリースベース(蔓で作られた直径30cmの輪)、種々の木の生葉(ゴールドクレスト、ヒムロスギ、ヒノキ、千両等)、木の実(マツボックリ、ヒマラヤスギ等)、その他の材料が並べられていました。



まず、クリスマスリースを吊り下げるための針金の輪を作り、それにリースベースを固定しました。

次に木の生葉を適当な大きさに切り

クリスマスリースの本体作りです。リースベースの表面に木の枝葉の根元を細い針金で巻いて固定し、その固定した枝の根元が隠れるように木の生葉をリースベースに並べて固定しました。問題は、多種類の葉をどのように並べて見栄えを良くするかです。この辺りまではお母さん方の出番でした。

いよいよこれからが子供たちの出番です。マツボックリ等をリースに貼り付けるため、赤い



リンゴピックや白い綿の実をどこに置けばきれいに見えるか。お母さんたちと相談しながら並べ終わりました。

次はいよいよ接着。グルーガン(ピストルのような形のもの)の先端に蠟のスティックを入れ、スイッチを入れると、先端から溶けた蠟が出ます。細心の注意を払いながら、マツボックリ等のヘタに溶けた蠟を付け、リースの木の葉に着けたり外したり。色々工夫を凝らしながらマツボックリや綿の実をつけ終え、最後にリボンをつけると、『やったー』と満足顔。早速記念写真を撮り、講習会は終了しました。今回の参加者は、抽選で選ばれた12組の親子でした。

78号の目次

クリスマスリース	1
大根の種まきと収穫	2
せたがや散歩道	4
秋のバードウォッチング	6
かわらばん	8

大根の種まきと収穫体験

種まき

9月3日（日）晴れ。午前9時から、瀬田農業公園（分園）で大根の種まき体験。

最初に、大塚氏^{*}から世田谷の農業の歴史、大根の種類とそれぞれの特徴等について話があり、続いて、（一財）世田谷トラストまちづくりの担当係長の挨拶、農業指導員の住友さんから大根の種のまき方の説明がありました。今回も、マルチシートが被せられた畝が作られており、そのマルチシートの穴のところに人差し指で、正三角形になるように穴を3つ開けること。深さは、人差し指の第一関節まで（子供の指で、2cm～2.5cm）。そして、その穴に大根の種を一粒ずつまいて土を被せること。大根の種類は、大蔵大根と青首大根の2種類です。

まず、最初に10家族がカップに入った種を貰い、畑の中に。畑にはマルチシートが敷かれ、畝が半分に仕切られていて、穴が36個あいています。

それぞれの家族が種をまく穴を確保したところで、残りの7組にも種の入ったカップが渡され、畝の残りの半分の部分に散開し、種まき開始。前日の雨の影響で、種をまく穴は簡単に開けられます。しかし、大根の種が小さいため、幼児には一粒ずつ穴に入れるのが大作業。指から種が転げ落ち、穴の外に逃げられたり、二粒か三粒一緒に穴に入ったのを取り戻したり、やっとの思いで、種まき終了。

ほっとしたところで、農業指導員から大根の話がありました。通常、大

根の種は30cm間隔でまくとのこと。青首大根は葉が縦に（上に）伸びるので、それでよいのですが、大蔵大根は葉が横に伸びるので、穴の間隔が狭いと葉と葉が重なりあいます。そのため、今回は穴と穴の間隔を40cmにしました。

また、大根はいろいろな料理に使えます。その上、体に良い野菜です。これからも、皆さん沢山大根を食べてください、という事でしたが、幼児にはちょっと難しかったようです。暇を持て余し、せっかくまいた大根の種の上に土で山を築いて、あわててお母さんが土を払いのけたりする一幕もありました。



収穫

11月25日（土）快晴。9月に大根の種をまいた家族が集合し、午前9時から、大根の収穫作業です。

農業指導員から大根の収穫（引き抜き）の方法の説明がありました。まず、両膝を折り、体を低くして大根の首と葉の付け根のところを両手でしっかり握り、膝を伸ばすと同時に腕に力を入れて大根を持ち上げます。

青首大根は、大根の部分が地上に10cmから15cmほど伸びており、また、大根の尻尾のほうが細くなっているため、収穫は比較的楽です。それに

反し、大蔵大根は、大根の部分がほとんど土の中にあります。また、大根の太さは、首の部分から尻尾の部分まで同じか、尻尾の部分がやや太くなっていますから、引き抜くのが大変だと思いますが、頑張ってください、とのことでした。



そして、収穫作業開始。まず、いっせいに畑に。青首大根の生育のよさそうなものに目を付け、両親に教えられながら、農業指導員の説明通りに大根の首と葉の付け根のところを握りました。満身の力を入れて引っ張りましたが、幼児がいくら頑張っても、大根はびくともしません。お母さんと一緒に引っ張りましたが、それでもだめ。とうとうお父さんと交代。さすが、お父さん。大根がスーッと抜けましたが、5cm程引き抜いたところで、幼児に分らないように、また、大根を穴に戻し、改めて、幼児に挑戦させました。一度、引き抜いた大根は、幼児の力でも抜けました。50cm 近くの大きく、重い大根を持ち上げ、『やったー』というような満足顔。

今度は、大蔵大根に挑戦。こちらはお父さんも若干、苦戦しましたが、大根を折るようなこともなく、全員が目的達成。全家族、3本ずつ大根を収穫して本日の収穫作業は終了。

重い収穫物を手に、皆さん笑顔で帰途に着きました。



*大蔵大根について

大蔵大根の原種は、昔、練馬付近を原産とする「秋づまり」という品種だそうです。それを、江戸時代に杉並付近で農業を営んでいた「源内」という人が改良し、「源内づまり」という品種となったそうです。その「源内づまり」が世田谷の大蔵周辺で栽培され、品種改良されたのが「大蔵大根」だそうです。名称登録は意外に遅く、昭和28年。昭和40年代までは、世田谷で広く栽培されていたのですが、昭和49年に誕生した「青首大根」の普及に伴い次第に姿を消してゆきました。平成9年に世田谷区、農業団体、農家等が会合を開いた際に「街おこしの一環として、また、区内の農産物をPRするためにも大蔵大根を復活させるべきである」ということになったそうです。それで、種苗会社から種を集めて栽培し、瀬田在住の大塚氏等が改良して、現在に至ったのだそうです。

*青首大根について

在来種が成長に3ヶ月要するのに対し2ヵ月で成長し、また、病気にも強く、大根の首の部分が地上に伸びて成長するので、収穫の際の労力が少なく済むなどの条件がそろっているため、在来種にとって代わったのだそうです。

青首大根は小型なので、人数の少ない家庭向きだともいわれていますが、今回収穫した大根を見ると、全般的に、青首大根の方が大きかったようです。

せたがや^あ散歩道

てたくぶつく～等々力溪谷コース 等々力駅から

⑦ 満願寺 所在地：等々力3-15

真言宗の寺院。文明2年(1470)吉良成高により創建されました。ご本尊は大日如来、寺内には国の史跡に指定された儒学者、細井廣澤^{*}の墓や、御岳山古墳から出土した七鈴鏡が保存されています。

⑧ 玉川神社 所在地：等々力3-27

和歌山県本宮町の熊野神社が本社で、もとは熊野神社と称していました。

明治41年(1908)近くの神社3社を合祀して玉川神社と改称しました。

⑩ 天祖神社 所在地：中町3-18

中町(旧野良田村)全域の氏神で神明宮と称していました。明治7年に改称。祭神は天照皇大神、倉稻魂命の二柱です。



⑪ 金剛寺 所在地：中町2-20

弘安7年(1284)聖空上人が薬師如来を勧請して、野良田の北向薬師として信仰を集めました。慶長年間(1596-1614)に、当地に帰農した吉良の遺臣

粕谷一族が菩提寺として金剛寺を建立しました。本尊は大日如来、真言宗智山派に属します。



⑫ 姫の滝 所在地：中町2-38

かつては野良田の滝と言われ、等々

力の滝とともに有名でした。現在は谷沢川を渡る姫之橋から眺める特異な風景が見られるだけです。



川の流を二分しているのは、浄化のための方です。^{**}

⑬ 岸の橋 所在地：野毛2-12

昔はこの丘陵地帯には、昔の多摩川の流を利用して船便の荷揚げ等が行われていました。^{あざ}



地名の「岸(旧字名)」がそこを流れる丸子川の橋名になっています。

⑭ 大塚古墳 所在地：野毛1-25



多摩川を望む台地にある帆立貝式の前方向円墳。高さ11m、墳丘全長82mで墳丘表面は葺石で覆われています。^{*}

築造は4世紀末から5世紀初頭とみられ、畿内王権と関係の深い南武蔵の大首長墓と推定されています。

^{*}せたがやの文化財 世田谷区教育委員会編より

⑮ 庚申様 所在地：野毛1-13



庚申の日の守り本尊としての青面金剛を祀っています。人体に住むという三尸

^{*} 細井廣澤(1658-1730)江戸時代の書家、篆刻家でもある。

^{**} トラストネットワーク No.16 P-7 参照

の虫が、庚申の日に天帝へ罪状を告げて、その人の寿命を縮めるという言い伝えがあり、その告口をされないように夜通し見張る風習があります。中国から伝わる道教の影響です。

⑳ 六所神社 所在地：野毛2-14



昔、多摩川が洪水の時、御神体が野毛に流れ着き、調べた所、府中六所神社の祭神でした。そこで村人たちは六所明神として村の鎮守として祀ったと言われています。明治31年村内の他の神社を合祀しています。



㉑ 善養寺 所在地：野毛2-7

ここにはひととき大きいカヤノキがあります。樹齢6~700年と言われ、都の天然記念物に指定されています。



本寺院の御本尊は大日如来。京都東山の総本山智積院の末寺で、

深沢から野毛に移されたといわれています。

㉒ 野毛の渡し跡 所在地：野毛2-5

㉓ 等々力の渡し跡 所在地：玉堤2-9



両方の渡しを比較します。野毛の方は対岸が同じ東京府下野毛村のため学校、消防などの利用や大型船が使われて荷車などの通行が盛んでした。一方等々力の方は小型船が使われ、人の他は手車程度の渡しに使われたようです。



㉔ 御岳山古墳 所在地：等々力1-18

5世紀後半の円墳で東京都指定遺跡です。直径42m、高さ7m、大正6年(1917)ここから七鈴鏡が発掘されています。現在満願寺に保管されています。御岳山は満願寺の所有です。なお現在出入りが禁止されています。

㉕ 等々力不動尊 所在地：等々力1-20

本尊は平安時代末に、新義真言宗の宗祖教興大師が山城国(京都府)よりこの地に移したと伝えられています。現在は満願寺の別院となっています。

㉖ 等々力溪谷 所在地：野毛1-16

谷沢川によって出来た谷で、多くの動植物が見られますが、有名なのは古墳時代後期(7世紀)に築造された横穴墓穴です。

* せたがやの文化財 世田谷区教育委員会編より

秋のバードウォッチング

～親子観察会

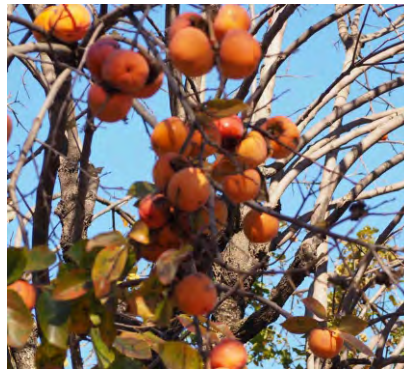
快晴に恵まれた11月25日(土)、表題のバードウォッチングが開催されました。(一財)世田谷トラストまちづくりが主催のイベントで、野鳥ボランティアのメンバーによって運営されました。

午前9時15分、小田急線喜多見駅前に集合し、きたみふれあい広場から野川右岸に沿って歩き、谷戸橋を渡って折り返し、野川沿いにビジターセンターまで約1.3kmを歩く2時間の行程です。



定刻までに約40人が集まりました。ほとんどが親子連れ、親子観察会となりました。約10人ずつのグループに分かれ、野鳥ボランティアの方をガイド役として順次出発しました。

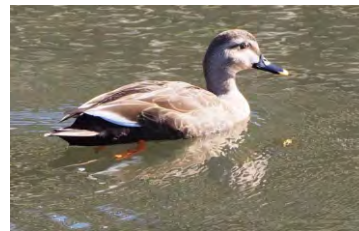
喜多見駅北側の住宅街の一角に大きなカキの木があり、多くのカキの実が鳥に突つかれた状態になっています。この季節はヒヨドリなど鳥に



にとって美味しい餌なのでしょう。さらに進んで住宅街からふれあい広場への上り道へ差し掛かります。そ

こにも、赤い実をつけたモチの木やピラカンサの木が目につきました。ガイドの説明ではこれらの実も鳥の好物だそうです。

広場から野川と対岸の国分寺崖線を眺めながら進んで行くと、近くの植え込みから「ちちちち・・・」と鳴き声が聞こえて来ます。ガイドの説明でウグイスの鳴き声と分かりました。春に備えての練習でしょうか。神明橋が見える辺りで川岸近くまで



下ります。陽光を浴びながらカルガモがゆっくりと川を下っていき

ます。その時さっと一羽のカワウが低空飛行で川面を飛び抜けて行きました。野川は河川敷が自然のままの状態に維持されているのが特徴で、河川内の水中生物だけではなく、多くの動植物が共生し、そこへ鳥類が入り込んで豊かな生物環境が保たれています。



2羽のカルガモが続いて川岸に近づいて来ました。川岸に何か異変が起きているようです。1羽のコサギが川岸に現れました。おそらく両方で餌を探しているのでしょう。



しかしカルガモはコサギに無関心で、その前を通り過ぎてしまいました。コサギもまたそれを見過ごし、いつもの無表情のままでした。鳥相互の



存在は認めながら、余計な動作はしないという原則が働いているのではないかと

いう感動的なシーンでした。

水際にハクセキレイが休んでいます。周囲を見回しながら仲間を探しているように見えます。

この辺りはカワセミの巣があるところで、よく対岸から望遠レンズを構えた写真家たちが見



られます。ハクセキレイを眺めているとカワセミが飛び去って行きました。また「今の鳴き声はヒヨドリだよ」とガイドの方から教えられたり

して、バードウォッチングの忙しさを改めて感じました。

ビジターセンターへの帰り道、ふと上を見ると木の枝にシジュウカラが止まっています。今日の最後の成果でした。その後グループで集まり、今日見られた野鳥をまとめました。

カワウ、コサギ、カルガモ、カワセミ、ハクセキレイ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ユリカモメ、このあたりまではほぼ全員が見つけていました。その他に1,2人が見つけた種類は、アオジ、メジロ、ハシブトガラスなどでした。(グループで差がある)

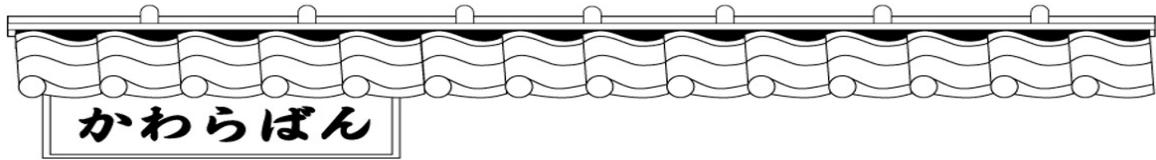
ビジターセンターでは野鳥ボランティアの方から、鳥についての講話がなされ、小学生たちの鳥についての博識ぶりには驚かされました。

「バードウォッチング」とは鳥の観察だと思っていましたが、眼だけではなく耳も使う、足も使う、もちろん頭も使う観察であることをつくづく感じました。野鳥ボランティアの方々に感謝いたします。



**野鳥と自然に親しむ楽しい仲間
野鳥ボランティア募集中**

詳しい内容は
(一財)世田谷トラストまちづくりに
お問い合わせ下さい
(問合せ先は表紙タイトルに記載)



かわらばん

牛肉はなぜ高いか

あなたは何の肉がお好きですか。私たちの日常生活で食卓にのぼるのは、牛、豚、鶏などが多く、地域によっては羊や馬などの肉を目にするものもあるでしょう。

これまでの私たちの食生活を振り返ってみると、経済が成長して生活が豊かになると食卓に上る肉は鶏から豚へ、豚から牛へと消費者の求めに応じて変化してきました。そして、みんなが牛肉を食べるようになったらどうなるのだろうかと心配した人もいたようですが、牛肉の消費量はそれほど伸びていません。

食肉の生産について調べてみると、大量の水が使われていることに驚きます。それは家畜が多量の水を飲んでいるからではありません。タネを明かすと、餌になるトウモロコシやコウリヤンなどの飼料用作物の栽培に大量の水が必要だからです。ちなみに、食肉1キログラムを生産するのに必要な餌の量は、牛が11キロ、豚が7キロ、鶏が4キロになるそうです。その餌になる作物を栽培するために必要なおよその水の量は、牛が2万リットル、豚が6000リットル、鶏が4500リットルという計算になるそうです。100グラムの牛肉の生産には2000リットルにもなる計算です。餌（水も含めて）の量だけからみても、牛肉の価格が高くなるのはやむを得ないといえるのです。最近の傾向をみると、世界的にみて牛肉の消費量は増えているが、鶏肉の増え方のほうが大きいそうです。やはり牛肉は

高いので低所得層は食べないし、先進国の経済的に豊かな人も健康志向で鶏肉を食べるようになってきているためではないかと言われています。

現在のところ、世界的にみて食肉の餌の栽培に必要な耕地や水が劇的に増えるような状況ではありませんが、これから世界の人口が大幅に増加すると、耕地と豊かな水のある地域（国）が食肉を含めて食料生産において優位な立場になるものと思われます。そんな時代になると、牛肉はまた高価な食品になってしまい、気軽に食べられなくなるかもしれません。牛肉を食べるのは今のうちかも知れませんか・・・。

いきものさんぽ

モミジバフウ
モクレン科



駐車場や街路樹として使われ、緑の木陰も、秋の紅葉も、とても素晴らしいです

編集後記 11月半ばを過ぎると、所々に紅葉が目立つようになります。長年の植樹計画の結果、こんなにも紅葉がとませる時があります。12月に入ると駅前とか緑道沿いにLEDを用いた大きなクリスマスツリー。いずれも生活に彩りを添え、豊かな気持ちを与えてくれます。

78号作成に関わったメンバー

大泉定雄 片寄正史 北島明子 須永澄子
高梨麻実 田澤與光 野武一郎 宮下正雄